

第3次男女共同参画プランまるがめ 進捗状況一覧

(1) 施策実施評価基準		(2) 審議会による目標ごとの進捗状況の評価基準	
A	目指すまちの姿に対して施策の効果が十分得られた。	進捗している	目標ごとの施策実施に関する審議会の評価がAまたはBであり、Aの方が多い。
B	目指すまちの姿に対して施策の効果が得られた。	概ね進捗している	目標ごとの施策実施に関する審議会の評価がAまたはBであり、A、B同数またはBの方が多い。
C	目指すまちの姿に対して施策の効果がほとんど得られなかったため、事業の見直しが必要である。	あまり進捗していない	目標ごとの施策実施に関する審議会の評価にCがある。

	目指すまちの姿	施策番号	施策	平成29年度事業実績		
				(1) 審議会による施策実施評価	(1-1) 審議会によるコメント	(2) 審議会による目標ごとの進捗状況の評価基準
目標1 男女共同参画の意識づくり	男性も女性も一人ひとりが誇りを持って自分らしく生きています。「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識にとらわれず、個人として等しく尊重され、男女共同参画の必要性について理解を深めています。	【1】	人権尊重・男女共同参画意識の醸成に向けた広報、啓発の充実	B	住民が主体的に考える手法を取り入れた川柳は評価できる。一方、男女共同参画を推進するリーダーを養成する事業については、具体性のある計画を立て、主体的に関わる人が増えるよう取り組むことを望む。	概ね進捗している
		【2】	情報の収集、提供と実態調査の実施	B	男女共同参画の意識・理解をもつ企業がある一方、市内で多数を占める中小零細企業に対する情報収集・提供が十分でないと思われる。効果アップを目指し、そういった企業への取り組みを望む。	
目標2 男女共同参画を推進する教育、学習の充実	家庭、学校、地域において、子どもから大人まで、男女共同参画や自分らしく主体的に生きていくことの大切さを学ぶ機会が充実しています。そして、子どもたちは、学校だけでなく、家庭や地域においても、男女共同参画の意識を	【1】	男女共同参画の視点に立った教育、保育の推進	B	年齢に応じた対応、特に現場と共に実践している幼保運営課の姿勢は評価できる。今後、学齢期での取り組みにおいても、丸亀の独自性が発揮できるよう、教育現場の環境整備・支援の取り組みを望む。	

目指すまちの姿	施策番号	施策	平成29年度事業実績		
			(1)審議会による施策実施評価	(1-1)審議会によるコメント	(2)審議会による目標ごとの進捗状況の評価基準
持つ大人たちからの声かけや働きかけにより、男女が協力して家庭生活を築くことや社会へ参画していくことの重要性について理解を深めながら成長しています。	【2】	男女共同参画の視点に立った進路指導、キャリア教育の推進	B	関係課の協力を得ながら、様々な人生の選択肢に子どもたちが興味を持つようロールモデルを提示するなど、情報提供の手法を検討すること。担当課として主体的に何ができるかを熟慮し取り組むことを望む。	概ね進捗している
	【3】	男女共同参画の推進に向けた学習機会の提供	B	あらゆる世代の人が楽しく男女共同参画について、集い・学ぶことができるよう今後も取り組むこと。また、事業評価に資する効果測定の方法について再度検討されることを望む。	
目標3 政策・方針決定過程への女性参画の推進	【1】	政治への関心を高める取組の推進	B	暮らしと政治は密着しており、政治への関心は小さいころから主体的にものごとを考える教育環境が重要。丸亀の投票率が上がるような取り組みを考え、打ち出していくことを望む。	あまり進捗していない
	【2】	行政機関における意思決定の場への女性の参画拡大	B	職員の困りごとに対し耳を傾けているなど評価できる。職員が自信を持って働き続けられるよう、職場内の相互理解の機運醸成などの取り組み継続を望む。	
	【3】	企業などにおける意思決定の場への女性の参画推進	B	取り組み継続のポイントは熱意を持って対象者に関わっていくことである。今後も地道な活動を望む。	
	【4】	防災における男女共同参画の推進	C	男女がバランス良く参加するという意識が弱いと評価する。もっと積極性をもって、若い人の意見を吸い上げる仕組みづくりを考え、実施することを強く望む。	

	目指すまちの姿	施策番号	施策	平成29年度事業実績		
				(1)審議会による施策実施評価	(1-1)審議会によるコメント	(2)審議会による目標ごとの進捗状況の評価基準
目標4 男女のワーク・ライフ・バランスの推進 《重点目標》	男女が職場での仕事だけでなく、家庭での家事においても責任を果たしつつ、やりがいや充実感を感じながら働いています。また、それぞれのライフステージに応じて、男女がともに子育て、介護、地域活動を主体的に担い、趣味などの自分の時間も大切にしています。	【1】	働き方改革の推進に向けた機運の醸成	B	女性活躍推進協議会設立は評価できる。今後、本協議会の取り組み成果に期待する。キッズウィークについては、市内限定の取り組みのため、保護者の勤務先が市外の場合、対応・取り扱いが難しい面がある。先進事例でもあり、今後の動向を注視していく。	
		【2】	企業などにおけるワーク・ライフ・バランスの推進	B	啓発・周知のターゲットを明確にされていると思うが、対象者の理解度具合が事業成果の成否を分けることを十分に意識して、今後の啓発・周知に努められることを望む。	
		【3】	市役所におけるワーク・ライフ・バランスの推進	B	研修成果が現れるよう、研修で学んだことを実践する仕組みづくり、体制づくりを庁内で具体性を持たせ実践することを望む。	
		【4】	働く男女の健康管理対策の推進	B	同性にしか相談しにくいということもあるため、メンタルヘルスの取り組み、特にゲートキーパー養成において女性参加者が少ないようであれば、増やす努力を望む。	
		【5】	コンパクトシティの推進	C	特に高齢者を意識し、将来の丸亀市を具体的にイメージしたプラン作成と思われる。今後は、プランを実行する段階となる。事業展開時、職員個々には、高齢者のみならず、あらゆる人が生活しやすいまちづくりとなるよう心掛けることを望む。	

目指すまちの姿	施策番号	施策	平成29年度事業実績		
			(1)審議会による施策実施評価	(1-1)審議会によるコメント	(2)審議会による目標ごとの進捗状況の評価基準
	【6】	子育て環境の整備、充実	B	細密に事業展開されており評価できる。幸せの考え方が時代とともに変化している現代、ジェンダー的視点を事業計画に取り入れる必要性を理解し、更なる努力・工夫を望む。	あまり進捗していない
	【7】	高齢者などに対する介護支援の充実	A	様々な事業に取り組んでおり評価できる。そのうえで、高齢男性ほど孤立するリスクが高いというデータもあるため、高齢男性への配慮意識を事業推進の中に組み込むことを望む。	
	【8】	保育士の確保	B	男性保育士が増えることを期待するが、保育士不足の現状を考慮すると、まずは保育士確保を望む。	
	【9】	介護職域における人材の育成、確保	B	過去、介護は女性が主な担い手であり、家庭内労働であったためか、介護職の賃金が低い状況にある。これはジェンダー問題の最たるものであり、すべての介護職員がこの職業で自立した生活ができるような仕組みづくりの実現を望む。	
	【10】	男性の家庭生活への参画推進	B	男性は家庭生活での活躍チャンスを奪われているという見方もできる。高齢男性の孤立リスクへの対応という視点を持ち、事業に取り組むことを望む。	
	【11】	地域活動における男女や多様な世代の参画推進と活動支援	B	取り組まれている方向性は良い。引き続き、目指すまちの姿実現に向け、取り組むことを望む。	

目指すまちの姿	施策番号	施策	平成29年度事業実績				
			(1)審議会による施策実施評価	(1-1)審議会によるコメント	(2)審議会による目標ごとの進捗状況の評価基準		
	【12】	市民活動への支援と参加推進	B	これまで市民活動の担い手として期待されていた女性は家庭から仕事に出ている時代であり、市民活動をボランティアで従事してもらうのは難しい。今後の市民活動では、NPO法人設立などの手法を取り入れ、仕事として取り組めるような働きかけを望む。			
目標5 男女がともに生き生きと働き続けられる労働環境の整備		【1】	女性の就職・再就職、継続就労、起業・創業などのための支援	B	企業側の努力だけでなく、出産や育児で退職する人をなくすために何が出来るか、地域も家族も考える仕組みづくりに取り組むことを望む。	概ね進捗している	
		【2】	企業などにおける男女雇用機会均等対策の推進	B	企業に働きかける各担当課が個別に調査・研究するのではなく、庁内横断的な取り組みをしながら、効果的な働きかけをしていくよう望む。		
		【3】	女性の職域の拡大	B	職場環境改善の支援情報などを提供しながら、こうすれば女性からの応募が増えるといった発想を持ち企業支援などをされるよう望む。		
		【4】	農林水産業、商工業などの自営業に従事する女性への支援	B	若い人材を獲得する潮流を作るよう、アピール方法を再検討することを望む。弱みと考えるものでも自らの強みと感ずるような発想の転換が必要。		
目標6 配偶者などからの暴力の根絶《重点目標》		市民がいかなる暴力も許さないという意識を持ち、DVやセクシュアル・ハラスメントなど、あらゆる暴力のない社会が形成されています。	【1】	あらゆる暴力を許さない意識の醸成に向けた啓発の実施	B	様々な課が周知・啓発している点は評価できるが、周知方法が組織・団体などの代表者が参加する会が中心であることから、広く住民へ周知する一工夫を組み入れるよう望む。	

目指すまちの姿	施策番号	施策	平成29年度事業実績		
			(1)審議会による施策実施評価	(1-1)審議会によるコメント	(2)審議会による目標ごとの進捗状況の評価基準
	【2】	女性相談窓口の周知	B	周知方法として民間施設を活用し、広がりを見せているのは評価できる。効果測定のため、相談者からの聞き取りを行うなど、現状の周知方法以外の手法も研究すること。また、あらゆる会合の機会を利用して相談カードの存在をPRしたり、男性トイレへのシール貼付協力要請を行うことを望む。	あまり進捗していない
	【3】	発見通報に関する関係機関への働きかけの実施	B	相談を受ける職員、窓口業務を行う職員が感度を上げて被害者救済へつなげられるよう、複数回研修をし、個々の職員能力が深化するよう工夫することを望む。関係機関への情報提供については、周知内容が情報提供に留まることなく、普段から気をつける意識づけとなるよう工夫を凝らすことを望む。	
	【4】	相談員の資質向上のための研修実施と心理的ケアの充実	B	身近な相談窓口を担っている自覚を常に持ち、日々の研鑽に努めてほしい。そのうえで、地域へ直接出向くなど、情報収集力アップを図り、機能向上させる手立ての検討も望む。	
	【5】	相談室の整備	B	相談室の確保に留まることなく、相談しやすい体制づくりなど、工夫点・改良点がないか常に考え、取り組んでいくことを望む。	
	【6】	DV被害者が一時的に避難できる場所の確保	B	市として取り組める手立て・方策はないのか、常に意識し、今後も事業に取り組むよう望む。	

目指すまちの姿	施策番号	施策	平成29年度事業実績		
			(1)審議会による施策実施評価	(1-1)審議会によるコメント	(2)審議会による目標ごとの進捗状況の評価基準
	【7】	DV被害者と同僚の子どもへの適切な情報提供と切れ目のない支援の実施	C	支援のためのネットワークが、本当の意味での被害者支援をできるよう、連携方法、協議の仕方など、再度確認し、実効性ある取り組みを実践していくよう望む。	
目標7 生涯にわたる男女の健康支援	【1】	男女の性をともに理解・尊重する意識の浸透	C	現場である学校の実績についてはB評価であるが、男女共同参画を推進するために課として何ができるのか、学校現場の環境整備をどうしていくのかという視点が不足しているため、C評価とする。今後、担当課が主語となる計画策定・事業実施となるよう考え方を改めることを強く望む。	あまり進捗していない
	【2】	男女の心とからだの健康保持・増進対策の推進	B	地域に出ている保健師は本当によく動いている。受診率向上に向け、今後も取り組むよう望む。	
	【3】	女性の生涯にわたる健康保持・増進対策の推進	B	現場に出て奮闘されている姿をよく見かけ、数値では表れない効果も出ていると評価する。今後も、事業実施方法を検証しながら、事業継続されることを望む。	
目標8 困難を抱える人が安心して暮らせる環境の整備	【1】	ひとり親家庭への支援の充実	B	既存の事業ばかりとなるが、生活不安なひとり親家庭へは、丁寧な相談が重要なので、今後も継続して取り組むことを望む。	
	【2】	高齢者が安心して暮らせる環境の整備	B	地域で安心して暮らし続けるために既存の事業だけでなく、他に何かできないか常にアンテナを張っておく必要がある。施設改修の際には、あらゆる人が使いやすいものという考えと共に防犯の観点も忘れることがないよう望む。	

目指すまちの姿	施策番号	施策	平成29年度事業実績		
			(1)審議会による施策実施評価	(1-1)審議会によるコメント	(2)審議会による目標ごとの進捗状況の評価基準
	【3】	障がい者が安心して暮らせる環境の整備	B	24時間365日相談できる窓口もあり評価できる。自主的に相談できない人もいると思われることから、特に市役所の窓口業務を行っている職員がそういった人への配慮や気づきができるよう、人材育成していくよう望む。	概ね進捗している
	【4】	外国人が安心して暮らせる環境の整備	B	相談対応は文化や家庭環境を踏まえて行う細やかな事業であり、成果も出ている。一方、受け入れている日本側の住民が外国文化との違いを知ることも大切であり、日本人向け啓発を今後検討する必要がある。広報紙等で丸亀在住の外国人（出身国）を紹介するなど、できるところからはじめることを望む。	
	【5】	多様な性を認める意識の醸成に向けた啓発の実施	B	目指すまちの姿に対して、施策がどれほどの効果をもたらしたのかという視点での評価であるのでB評価とする。多様な性への理解について、社会の認識が追いついていない現状を十分認識しつつ、事業推進されることを望む。	